

A. 小児保健の現状と課題, 提言

学校保健からみて

女子栄養大学
小林 正 子

学校保健における子どもの健康課題は、肥満、痩せ、体力低下、う歯、近視、アレルギー疾患、朝食欠食、いじめ、不登校、喫煙、薬物乱用、性の問題など実にさまざまであるが、これらのほとんどは小学校入学以前の、幼少期の生活習慣に起因すると考えられるものが多い。たとえば、肥満やう歯、朝食欠食などは、早寝・早起き・朝ご飯に代表されるような規則的な生活リズムが確立されないことに根本的な原因があり、その他の問題も幼少期の成育環境や発達課題の達成度等に関連しているのではないかと思われる。

しかし、こうした幼少期の子どもの状態は学校にはほとんど伝わらない。また何らかの問題の芽がすでに内在していることも学校は把握できないまま子どもを受け入れることになる。このため、母子保健、小児保健、学校保健の連携の必要性が叫ばれているものの、その連携がうまくいっている地域は数少ない現状である。しかし、この連携の鍵を握るのはほかでもない小児保健の関係者、すなわち小児科医、保健師、保育士、栄養士、歯科医、歯科衛生士、養護教諭そして行政の担当者などである。学校保健の側から連携を求めるときには、すでに問題が顕在化して大きくなってしまった後になるかもしれない。そこで、小児保健の側から学校へと働きかけ、子どもの成長に沿って一貫して見守るシステムをつくることが重要になってくる。

こうした連携を考える際、子どもの発育は絶好の材料である。子どもの発育は途切れることがないのであるから、出生から継続して発育状況をグラフに表して視覚的にとらえる取り組みがなされるように

なれば、母子保健・小児保健・学校保健が自然な形でつながることが期待できる。そのキーパーソンは小児科医であろう。小児科医が、子どもの心身の健康状態は発育に現れることを確認し、発育状況をグラフに表すことで健康管理につながることを保護者に伝え、また保育園、幼稚園、それらを担当する行政、そして学校に伝えていけば、子どもを継続して見守るシステムが構築できるものと思われる。

子どもの発育状況は、出生時からほとんどの親が母子健康手帳を利用してグラフに表しているが、保育園や幼稚園に入るとこまめに計測しても記録だけになってしまい、グラフとして表すことは少ない。これではせっかく計測した身長・体重などが健康情報としてあまり役に立たない。そこでまずこの状態を打開し、計測値をグラフに表すことを啓発したい。グラフは紙でもよいが、基準の成長曲線上にプロットできるものがインターネットでも手に入るため、保護者はそれを利用して計測値を入力しグラフ化する。そうしてファイルを作成しておけば、必要なときに印刷して病院などに持参することができる。一方で行政の担当者は、母子健康手帳の使用期間の延長や電子化も検討する必要がある。

発育グラフは子どもが健康に発育していることの確認になり、もし何か異常があれば早期発見することもできる。発育を継続して見ていくことで、疾病、肥満、痩せ（摂食障害の発見）、ストレス、成育環境の変化等に気づくことができる。大きい小さいは子どもの個性であるが、発育には心身の状態が反映されるので、生活リズムの乱れた日常を送っている場合、あるいは何らかの異常がある場合は、グラフに大きな変動が出現するだろう（図1）。その反対に望ましい生活リズムを維持しているならば健やか

0～6歳女子身長・体重発育曲線 ()

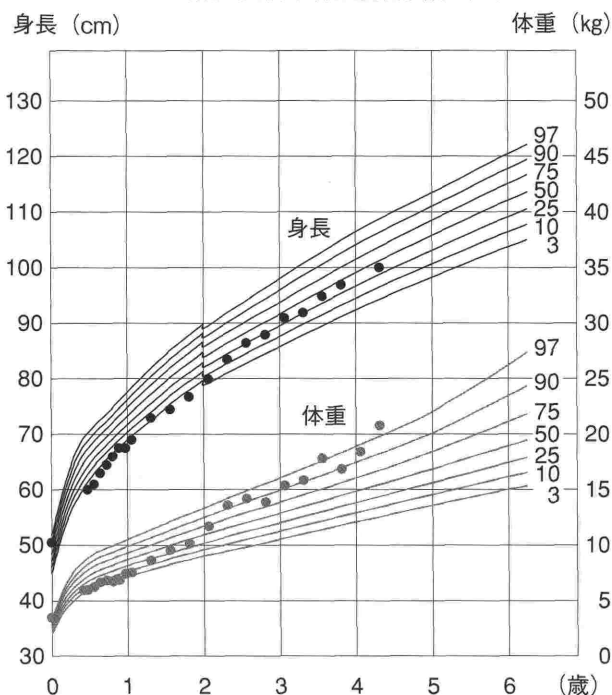


図1 体重変動が大きい女兒

0～6歳男子身長・体重発育曲線 ()

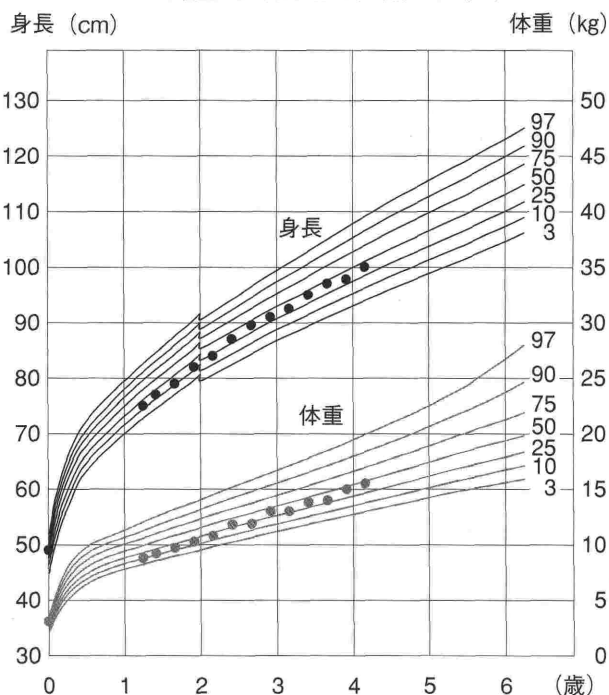


図2 季節変動はみられるが、とくに大きな変動なく成長している男児

に発育する様子がグラフからみてとれるはずである(図2)。学校に入れば年に3回程度の計測となるが、それでもグラフに表せば健康情報として活用できる。夏休みに体重がとくに増えるようであれば肥満になる危険があるため、健康教育や保健指導が視覚的に可能となる(図3)。

ところで、発育状況を学校につなぐことは個人情報保護という観点から難しいと思われるかもしれない。個人の情報は取り扱いには十分気をつける必要があることは言うまでもないが、そのことと子ども一人ひとりの健康を守ることとは全く別の次元である。個人情報保護に細心の注意を払いながら、子どもの健康に資することは実行されねばならない。問題が起きてから右往左往しても始まらない。さまざまな健康問題にはさまざまな方法で多くの人々が関わって努力しているが、そのもっとも基本的な部分として子どもの発育をグラフに表し健康情報として活用していく方法があるということを小児保健から学校保健に発信し、広く啓発していくべきであると考える。

0～18歳 男子身長・体重発育曲線 ()

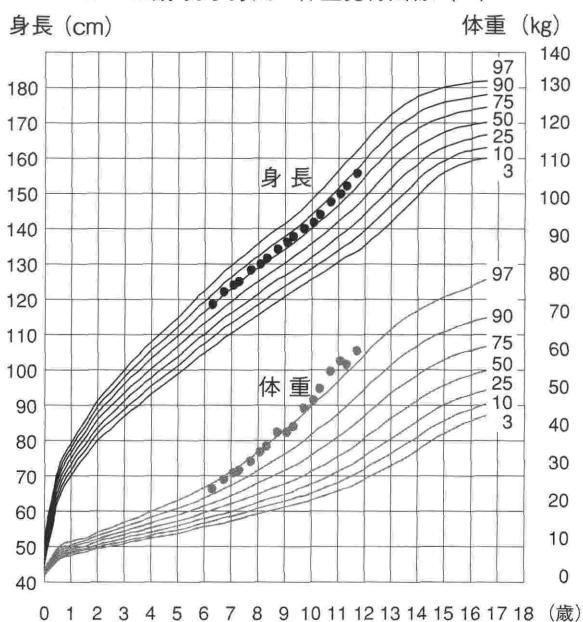


図3 肥満傾向が強まる小学生男子(毎年9月に体重が大幅増加していた)